

環境報告書（第三回）

第81期(H17年度・17.5/21～18.5/20)

平成18年5月30日
環境管理責任者

当社足立生産センターにおける環境活動について、日頃からご支援を頂き誠にありがとうございます。
当社足立生産センターにおける環境マネジメントシステム(EMS)の状況について取得後二年目を迎えたEMSの活動経過を、目的・目標を中心に報告いたします。

■主な活動経過

年月日	活動内容
H.17.6	活動内容 目的・目標の数値見直しを実施
H.17.9	2004年度版移行に伴い、環境方針、マニュアル、各種文書の見直しを実施 《環境マニュアル》第四版を制定 緊急時対応：サイト内全従業員参加のもと、火災予防・避難・消火訓練実施
H.17.10	EMS2004年版へ移行 内部監査実施
H.17.11	第三回維持審査受審(2004年版への移行認証および継続確認される)
H.17.12	《環境マニュアル》第五版を制定
H.18.2	著しい環境側面等定時見直し実施。若干の変更あり。
H.18.3	H.18.3《環境マニュアル》第五版を一部改訂
H.18.4	内部監査実施 緊急時対応：サイト内全従業員参加のもと、地震体験訓練実施(臨時)
H.18.5	経営者の見直し実施 第四回維持審査受審(認証継続確認される)
H.17.6～ H.18.5	環境委員会を計6回開催

■目的・目標活動結果

著しい環境側面	環境への影響等	是正措置等
損紙の発生	地球環境(森林資源)を守る	低減可能損紙率を3年で15%削減することを新たな目標数値にして、(本年度を初年度5%)活動した結果、前半はなかなか成果がでなかったが、後半になって、いままでの施策が効果を発揮し、通期で11%削減の結果を残すことができた。毎朝の作業ミーティング、また機長助手を交えた製造設計ミーティング、事業所全員への環境教育を通じて社員相互のコミュニケーションが深まったことが、用紙ロス削減に寄与したものと考え。
電気を使用する ガスを使用する	有効なエネルギー資源を有効に使う	上記の様に製品にならない生産活動を削減(損紙率の低減)し、また消灯・冷暖房温度管理を含め削減活動を実施したが、本年より使用量基準としたことが出来なかった。特にガスについては、年度最終において、熱量の減少変更があり、使用量が増加することになった。今後の推移を見て目標値の見直しも視野に入れる。